

1. 活動日時

令和4年8月7日（日）8:00-16:30

2. 活動場所

福井県南越前町

3. 被害状況

南越前町は福井県の中央部に位置し、総人口9,939人（令和4年8月1日）の町である。8月4日からの大雨により、最大1時間雨量93.0mm（南越前町荒井）、24時間雨量567.0mm（南越前町荒井）を記録し、8月の24時間降水量が観測史上1位を記録した。

この大雨の影響により、町内を流れる一級河川の鹿蒜（かひる）川が氾濫し、床上浸水163戸、床下浸水約150戸の被害が生じた（8月7日時点）。ライフラインの被害として、堺・鹿蒜地区、今庄・湯尾地区、赤萩地区にて最大で1,093戸断水被害が生じ、堺・鹿蒜地区においては、8月7日時点で復旧の見通しは立っていない。そのほか、斜面崩壊や土砂流出により多くの道路が損壊し、通行規制がなされている状況である。そのため、まだ被害状況が把握できていない集落が5か所あり、今後も人的・物的被害が増えていく可能性がある。

4. 活動の実際

8:00 ボランティアセンター開設場所から被害のあった近辺を車で調査。民生委員の方に片づけで困っている方の情報を聞き訪問。泥出し作業を直接依頼された。

9:00 ボランティアセンターで登録した後、依頼者宅へ訪問し泥出し、片付け作業を行う。

11:30 ボランティアセンターに戻り、活動報告終了。

12:30 福井県ボランティアネットから酒井理事長を通し孤立集落の高齢者の健康チェックを依頼される。活動時間の時間制限もあり南今庄、下新道地区巡回を判断。

13:30 南越前町保健師と高齢者など気がかりな方を中心に健康チェック

福井大学医学生5名とともに活動することを決定。

南今庄駅付近に移動し車を止め、それ以降は徒歩。

南今庄地区まで全員で移動。その後下新道地区班と別れて巡回。

16:30 下新道地区で南今庄班と合流しボラセンに戻り、保健師に状態報告し終了。

<片付け作業>9:00-11:30

ボランティア4名とともに徒歩で訪問。

家人2名60代。床上浸水で畳のみ除去。床はまだ濡れており、仏壇だけきれいに清掃されたとのことで家財はほとんど手がつけられていない状態。自宅周囲の泥の掻き出し作業、家財の拭きあげ作業、廃棄物の処理などの作業を行った。

<南今庄地区>14:00-14:30

巡回者：3名

区長さん宅を訪問し独居の高齢者、高齢者のみの世帯など避難行動要支援者についての情報収集をおこ

なった。

対象者：2家族3名

1) A氏

独居。自宅被害なし。体調不良なし、表情良く食事摂取できている。

断水で飲み水は確保できている（民生委員が配達）が、生活用水がなく困っている。

2) B氏・C氏

夫婦2人暮らし。自宅被害なし。元気でよく話される。

必要な物資は、別居の家族が買い物をして届けてくれる。

内服薬は1ヶ月分あるので心配ない。

<下新道地区>14:30-15:00

巡回者：4名

南今庄地区同様、区長さん宅を訪問し情報収集を行った。

対象者：2家族2名

3) D氏

独居。自宅被害なし。とても元気で世間話をされた。

歩行状態問題なし。眼瞼結膜やや白い、皮膚乾燥なし、P：60。

降圧薬、睡眠薬など定期薬は20日分あり問題なし。クーラーは嫌いでつけない。

水は十分足りている。

4) E氏

独居。自宅被害なし。お孫さん（成人男性）が来てくれており、必要物資など届けてくれている。体調不良なし。飲料水はあるが生活用水がなく困っている。川の水を汲んで生活用水にしているとのこと。

5. 健康上の問題・課題

午前には訪問した方は、被災3日目で、明らかな健康障害は見られなかったが、睡眠食事共に十分に取られておらず疲労が蓄積されていることが窺えた。

午後に巡回した5名は建物被害がなく作業はされていないので作業による疲弊はない。しかし、断水により生活排水がなく、風呂、洗濯、トイレなどが使用できない状況で、長期化すれば保清面のケアが必要。

近くの川を汲み取っている方などは、作業による熱中症のリスクがある。

水分は摂取していると話されるが、どのくらいかが具体的に把握できないため、排尿状況も問診が必要。

現段階で定期薬不足や受診困難などの方はおられないが、インフラが復旧しない状況では、健康障害のリスクが高く、1日1回は訪問し健康状態の把握を行う必要があると考える。

6. 所感

片付け作業は近隣住民や家族の自助・共助で行えているが、インフラ被害によりボランティアが入れない場所があり、徒歩により被害地域を巡回し早急に全体像を把握しニーズを明らかにする必要がある。

避難行動要支援者以外でも、家屋被災が大きい地区では作業による疲弊が大きい。午前中に作業に入った家では、床上浸水した状況であり、畳などはまくってあったが匂いや汚れがひどく、このような環境では睡眠も十分に取れず、食欲低下もあり精神的にも疲弊していく状況が予測される。ボランティアが5人ほ

どずつ入っている状況で人員的にすこし余裕があるので、ボランティアから被災者に対してある程度の健康チェックをしてもらうようにできれば、ハイリスク者の早期発見が可能と考える。
短期集中の復旧作業で長期化させないことが重要であり、作業ボランティアの人員拡大、巡回医療者の継続的な確保のための調整が必要。



写真1：片付け作業中の様子



写真2：孤立集落の道路



写真3：孤立集落の崩落した橋